

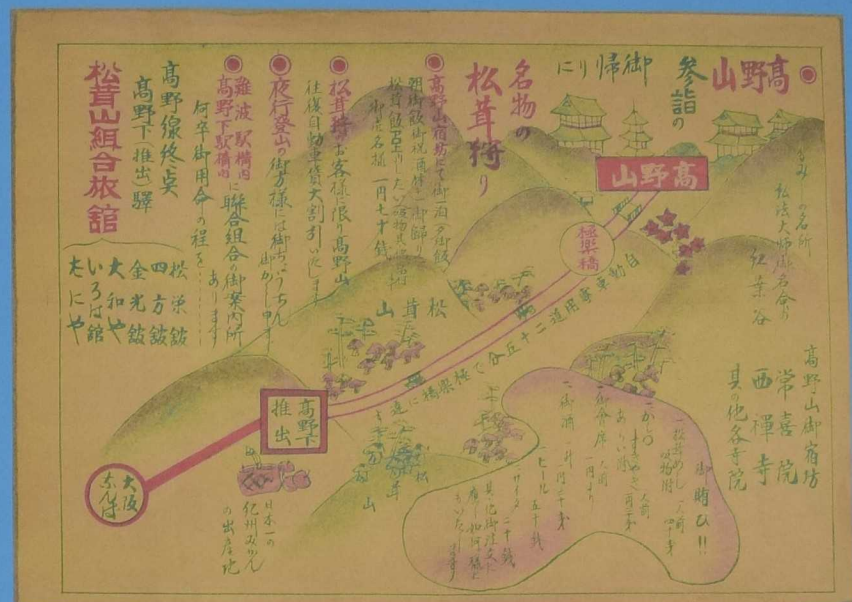
高野山で泊まる、食べる、買う



文書番号 2586
〔御定宿こかわや吉右衛門引札〕（年代不明）作成：こかわや吉右衛門

高野山千手院橋の近くにあった宿「こかわや吉右衛門」の広告で、引札といいます。

宿と名所の絵とともに作者不明の句、玉川歌碑、芭蕉の句が書かれており、目を引く彩色が施されています。

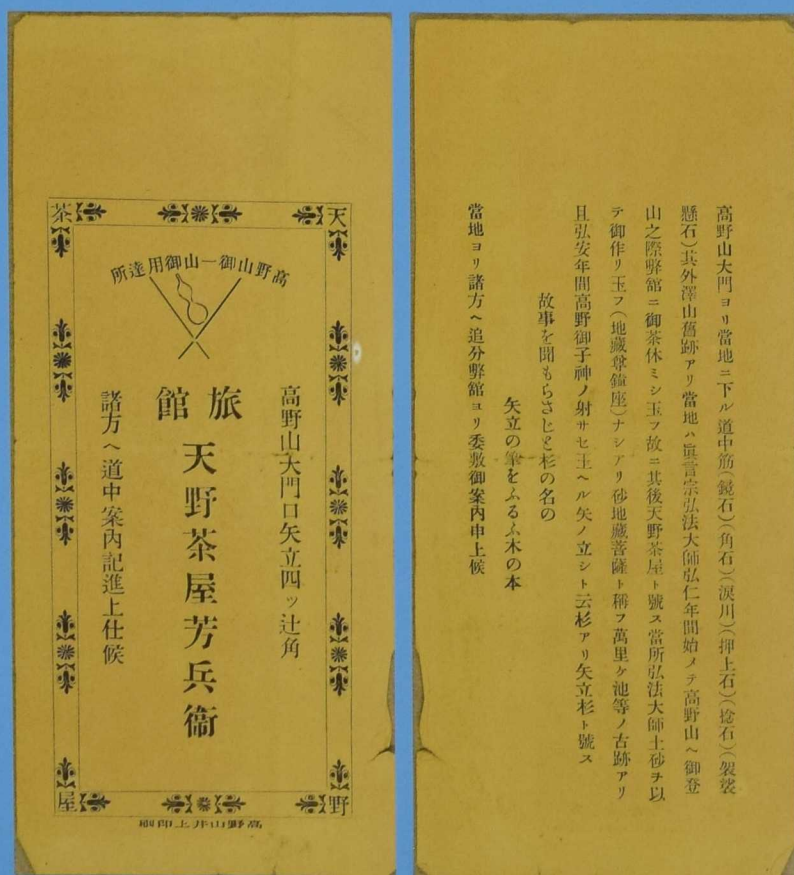


文書番号 2624
〔高野山宿坊、松茸山組合旅館等各種案内広告〕（近代）作成：一

松茸山組合旅館名や宿坊名が記載された広告です。広告には、宿坊一泊2食つきの料金は1円70銭とあります。

また、松茸のイラストも使って松茸狩り・松茸料理を前面にアピールしています。高野松茸は、現在最高級品として知られていますが、広告に記載されている松茸めしの価格は一人前で40銭で、50銭のビールとあまり変わらない価格で提供されていました。参考として、例えば大正14年（1925）の尋常小学校本科正教員の平均月俸は約70円でした。

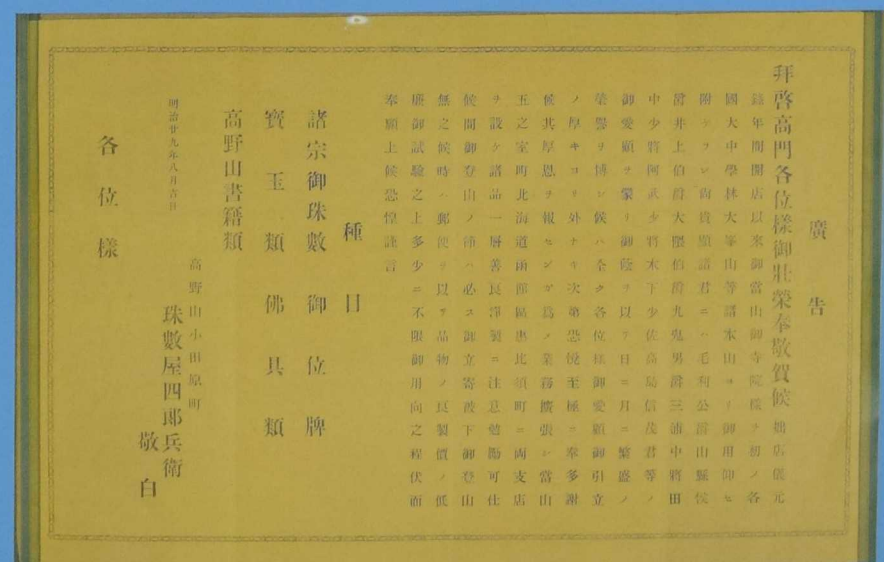
このほか、自動車料金割引や提灯の貸出などのサービスも提供されていました。



文書番号 2571
〔旅館天野茶屋芳兵衛広告〕（近代）作成：天野茶屋芳兵衛

高野山矢立にあった旅館の広告です。同地は慈尊院から高野山をつなぐ町石道の間にあり、茶屋や旅館、駕籠が集まる地でした。

矢立の天野茶屋として知られていたようで、明治時代の参詣案内書でも紹介されています。しかし、交通の発達によって町石道の利用者が減少するに伴い、天野茶屋も昭和時代に入ったころには廃れつつあったようです。



文書番号 5343
広告 明治29年（1896）8月吉日 作成：珠数屋四郎兵衛

江戸時代の創業以来、現在も高野山に店を構える珠数屋四郎兵衛の明治時代の広告です。

開業以来多くの寺院・元大名・政治家・軍人からのご愛顧のお礼、函館に支店を出すこと、高野山参詣の折には立ち寄りを願うことが記されています。